



校長室だより

月立小学校 校長 鹿野田忠之
令和4年2月24日 発行
第 11 号

まわりの人に学び、成長を！

気が付くと、もう2月末…時の速さを痛感しているこの頃です。あと1か月もすると、本年度も終わり、令和4年度を迎え、子供たちも一つ学年が上がります。「次の学年ではこんなことを頑張りたい」「こんな力を付けたい」といった目標をもたせながら進級させたいと思っています。

さて、先日まで北京オリンピックが開催されていました。開催前は、政治的な影響で、きな臭い感じがしていましたが、実際の競技を見てみると、スポーツのすばらしさを改めて実感しました。スポーツ好きの私は、様々な競技に釘付けになって観戦していましたが、いくつかの競技から感じたことを、朝会で子供たちに話しました。今回は、その内容を紹介いたします。

北京オリンピックが終盤にさしかかってきました。時差があまりないので見ている人たちも多いかと思います。校長先生はスポーツ観戦が大好きなので、北京オリンピックを毎日楽しく見ています。その中で、「見習いたいなあ」「すばらしい人だなあ」と思った人がいたので、皆さんに紹介したいと思います。

一人目は、高梨沙羅さんです。スキージャンプの選手です。

沙羅さんは、団体競技の1回目のジャンプで、反則をとられてしまい、失格となり、かなり落ち込んでいました。みんなに迷惑を掛けたとあって、かなりショックを受けていたようです。そのような気持ちでは、2回目のジャンプを跳ぶことは、かなり厳しかったと思いますが、沙羅さんは、気持ちを切り換え、2回目で見事なジャンプを見せてくれました。校長先生は、沙羅さんから「諦めないでチャレンジする心」を学びました。

二人目は、ロコ・ソラーレという女子カーリングのチームです。

チームの4人の選手は、常に笑顔。逆境のときにも笑顔で試合に臨んでいる姿が見られました。ピンチの時には、ドキドキして笑顔をつくるのは難しいかもしれませんが、ロコ・ソラーレの選手は、どんなときにも笑顔で、その笑顔は回りのみんなを明るくしてくれます。校長先生も「いつでも笑顔」を心掛けたいと思っています。

三人目は、平野歩夢さんです。スノーボードハーフパイプの選手です。

歩夢さんは、2回目で誰もやったことがない大技を決めたのに、いい点数が出ませんでした。かなり悔しい気持ちだったことが、画面からも分かりました。でも、文句をいわずに3回目のチャレンジで、見事大技を成功させて、金メダルを獲得しました。悔しいからといって怒りすぎたり、落ち込んだりせず、「悔しさをバネに努力する」ということ、校長先生は学びました。

オリンピックに限らず、みんなの近くには模範とする人がたくさんいます。友達、先輩、家族、地域の人、先生、そのような人たちに目を向けて生活してほしいと思います。そして、「いいなあ」と思うところをまねしながら生活してください。そのような気持ちで生活をしていくと、今以上に成長していけると思います。皆さんの成長を心から願っています。



月立っ子ギャラリー



今月も子供たちは楽しく、そして一生懸命学校生活を送りました。
子供たちの元気な様子を御覧ください。

ホームページでは、子供たちの様子を毎日公開しています。

<http://www.kesennuma.ed.jp/tsukidate-syou/>



生活・総合発表会 今年は動画配信



生活・総合発表会 今年は動画配信



1日入学で、給食着の着方を説明



今月の朝会は、オンラインで



6年生 新城小とオンライン交流



たてわりお別れ会に向けての準備